

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成17年11月4日(2005.11.4)

【公開番号】特開2004-357098(P2004-357098A)

【公開日】平成16年12月16日(2004.12.16)

【年通号数】公開・登録公報2004-049

【出願番号】特願2003-153944(P2003-153944)

【国際特許分類第7版】

H 04 R 7/22

【F I】

H 04 R 7/22

【手続補正書】

【提出日】平成17年8月12日(2005.8.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

スピーカ振動板の外周に折曲部から立ち下がる傾斜面を設け、エッジの内周に折曲部から立ち上がる傾斜面を設け、前記夫々の傾斜面が面接触状態に重ねられた部分を接着剤で接着すると共に前記スピーカ振動板の傾斜面の先端に接着剤の層を形成することを特徴とするスピーカ振動板とエッジとの接合構造。

【請求項2】

前記夫々の折曲部の断面をV字形に形成した請求項1のスピーカ振動板とエッジとの接合構造。

【請求項3】

前記スピーカ振動板の折曲部に多数のスリットを円周方向に並ぶように形成した請求項1または2のスピーカ振動板とエッジとの接合構造。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

【課題を解決するための手段】

この発明のスピーカ振動板とエッジとの接合構造は、スピーカ振動板の外周に折曲部から立ち下がる傾斜面を設け、エッジの内周に折曲部から立ち上がる傾斜面を設け、前記夫々の傾斜面が面接触状態に重ねられた部分を接着剤で接着すると共に前記スピーカ振動板の傾斜面の先端に接着剤の層を形成するものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

また、前記スピーカ振動板とエッジとの接合構造において、前記夫々の折曲部の断面を

V字形に形成したものである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

さらに、前記各スピーカ振動板とエッジとの接合構造において、前記スピーカ振動板の折曲部に多数のスリットを円周方向に並ぶように形成したものである。